

復活節第2主日（A年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：ヨハネ福音 20：19-31

弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。イエスが来て真ん中に立ち言われた。「あなた方に平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす。」また、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなた方が赦せば、その罪は赦される。」彼らと一緒にいなかったトマスは、イエスの手に釘跡を見、この指を中に入れてみなければ、彼らが主を見たことを決して信じない。後、イエスはもう一度トマスと使徒たちの真ん中に立ち、トマスに言われた。「信じない者ではなく、信じる者になりなさい。見ないのに信じる人は、幸いである。」

（二）カテキズムの響き（カトリック教会のカテキズムの番号 # 642-644、976、1167； YOUCAT #104、107 - 108、227）

イエスの復活後の日々起こった一つ一つの出来事は、使徒たちを復活されたイエスへの証しに参加させていくことになり、教会の礎石であり続けさせます。種々の証言を前にして、歴史的事実として認めないことは不可能です。イエスはご自分の受難と十字架上の死とを予告されました。これらが実際に起こった時、弟子たちの信仰が根底から揺り動かされたことは明かです。イエスの受難によって受けた打撃はあまりにも強かったので、弟子たちは復活の知らせをすぐには信じなかったほどでした。イエスは、その不信仰と頑なな心をお咎めになりました。復活した現実のイエスを目の前にしても、弟子たちはまだ疑っていました。トマスも同様に疑いを抱きます。ですから、イエスの復活は弟子たちの信仰、又は信じやすさが作りだしたものだという憶測は筋が通っていません。そうではなくて、使徒たちの復活信仰は、復活したイエスに現実にお会いするという直接的な体験から、さらに、神の恵みの働きのもとに、生まれたものなのです。

復活されたキリストは聖霊を使徒たちに与え、罪を赦すご自分の神的権能を使徒たちに授けられました。そのために、使徒の後継者である司教、さらに司祭は洗礼、ゆるしの秘跡と他の秘跡、とくに聖体の秘跡によって、罪の赦しという恵みを与えられます。主日は、典礼集会を行う日として特に優れています。この日に、使徒たちとキリストとの出会いのように、信者は集会で祈り、叙階された人の教えと神の言葉を聞き、聖体祭儀に参加して、主イエスの受難と復活と栄光を記念し、神に感謝をささげることです。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

290-291 ミサとゆるしの秘跡との関係及び必要性。

教会は、ミサに与る信者にふさわしい心構えをもって聖体拝領もするよう勧めています。成聖の恩恵の状態が必要です。大罪を犯したことを意識している人は聖体拝領の前にゆるしの秘跡をうけなければなりません。また、少なくとも復活祭には、それを義務づけています。

296-299 赦しの秘跡の呼び方、制定と意味

- この秘跡は悔い改め、和解、ゆるし、告白、回心という名をもって呼ばれます。
- 復活された主が、復活の夕方、使徒たちに現れて、聖霊によって罪を赦すという秘跡を制定されました。
- 欲望がもたらした罪によって、キリストから離れた受洗者の回心のために、この秘跡を制定されました。回心は自分の懷に罪人を抱いている教会全体が絶え間なく行うべきものです。

最後の祈り：慈しみの御父よ、あなたは御子キリストの尊い血によって私たちを贖い、水と聖霊によって、新しい命を与えてくださいます。年ごとに、主の復活を祝う私たちが入門秘跡の恵みを深く悟り、絶え間ない回心と信仰に生きることができるよう。